

■建学の理念・精神

1. 建学の精神

孔子の教えすべてが本学の建学の精神に通じるが、特に『論語』の章句より「義を行ひ以てその道に達す（行義以達其道）」（季氏篇）を選び出し、建学の精神としている。

本学の目指す「義」の精神は、「義」を行うことによって自分自身を切り開いていくことである。また「義を行う」とは、人間として為すべき使命を果たすことであり、端的に言えば理想を抱きながら現実の変革のために行動することにほかならない。儒学に説かれる「徳」とは、誰もが人間として、人とともに生きるためのさまざまな力である「人間力」であり、人間としての思いやり、優しさ、そして何よりも人間の使命感をもって、人のために行動する力こそ「人間力」である。そうした観点に立って、知識のための知識ではなく、「行義」の二字に込められた実践知、人間力を身につける人格の形成と教育を通じ、広く社会に儒学思想・倫理を啓発普及させることが本学の教育理念となっている。

2. 使命と目的

東日本国際大学は、建学の精神である儒学を根幹として、世界の平和と人類の福祉を基調とする経済学ならびに社会福祉学を教育・研究することを目的としている（学則第2条）。

目的に即して「基礎的専門性を備えた学士」を養成するために、全学を通じて到達目標としての学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施方針（カリキュラムポリシー）、本学が求める学生像・受け入れ方針（アドミッションポリシー）を定めている。

【学位授与方針：ディプロマポリシー】

- (1) 建学の精神である儒学を理解し、義を行わんとする強い意欲と寛容の精神をもち行動ができること。
- (2) 教養として文化・社会・自然等に関する知識や社会人として必要な言語運用能力・ICTリテラシーなど汎用的な技術と能力を身につけ、活用できること。
- (3) 他者と共に働き、社会を創る主体的な成員としての態度・倫理感・社会的コミュニケーション能力を身につけ、状況に応じて活用できること。
- (4) 自身の文化を知り、多文化社会への理解と国際交流・異文化交流に努める能力と意志をもち行動できること。
- (5) 課題を発見し解決する力を身につけ、地域社会やその他の属するコミュニティの発展に貢献する能力と意志をもち行動できること。
- (6) これらの知識・技能・態度等を、状況に応じて総合的に動員できる応用力・創造力を発揮できること。
- (7) 生涯を通して状況に応じて自ら学び、知識を深め、活用できるようになること。

【教育課程編成・実施方針：カリキュラムポリシー】

- (1) 少人数のゼミ（演習）を全学年で必修とし、初年次教育、基礎的専門教育、専門教育、卒業研究指導、就職活動支援を一貫してきめ細かな指導と対応を通じて行い、学習ポートフォリオを通じて振り返りの能力を深めることで、明確な目標を形成し、専門的な知識と汎用的な技術と能力を活用し、他者と協働できる力を伸ばします。

- (2) 東日本国際大学の建学の精神である儒学に関する知識・理解を深めるための科目を設定し、義を行う意欲と寛容の精神を育てます。
- (3) 日本語や外国語の運用能力、ICT リテラシーなど社会人としての基礎力である汎用的コミュニケーションスキルを習得する科目、文化、社会、自然科学、スポーツ等を通じて、さまざまなコンピテンシーを含む基礎的な教養を身につけるに一般教養科目を設けます。
- (4) 国際交流関連科目等においてさまざまな文化への理解と自己の文化を振り返る力を育成し、地域連携科目を通じて、課題発見力や地域への貢献の意欲を引き出します。
- (5) キャリア形成・資格取得に関する科目を設け、学生が当初より自らのキャリア・デザインを描くことができるようにします。
- (6) カリキュラムツリー等を利用し、科目間の体系的な構造を明示します。
- (7) アセスメント・ポリシーを制定して、評価・改善の方法を明確化し、教育改善を行います。

【本学が求める学生像・受け入れ方針：アドミッションポリシー】

A. 求める意欲・関心

本人の意欲・関心として以下を求め、面接や調査書、志願者本人が記載する資料等により確認します。

1. 建学の精神を理解し、倫理観の高揚を図る意欲のある人
2. 社会人としての基礎能力を身につけ、その上に専門知識の習得を目指す人
3. 勉学及びスポーツ・文化・社会活動等を通して豊かな人間性を発展させたい人
4. 修得した知識や能力を活かし地域社会・国際社会に貢献する強い意欲を持っている人

B. 求める学力の3要素

高校までに習得した学力の3要素として以下を求め、筆記試験や調査書、志願者本人が記載する資料、面接等により確認します。

1. <知識・技能> 各専門分野を学ぶために最低限必要となる教科の内容を学習していること。
2. <思考力・判断力・表現力> 学習した内容を活用して、さまざまな課題を解決していくために思考・判断しようと努力し、それを他者に伝える表現を試みられること
3. <主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度> 自ら積極的に、さまざまな人々とコミュニケーションを取り、協働して活動しようとしてできること

C. 上記のAとBを兼ね備えた入学者を選抜するために、多様な入学選考を実施します。各入試において上記をどのように確認するかの詳細については、学生募集要項において示します。

3. 大学の個性と特色

本学では、初年次教育、GPA (Grade Point Average)、学習ポートフォリオ、学生記録等、教育制度の整備を進めているが、そのなかでも特色と言えるのは、演習（ゼミナール）を中心とする少人数教育である。両学部とも全学年で学生はゼミに所属し、経済経営学部では平均10人程度、健康福祉学部においても平均6~7人程度の学生数でゼミが運営されている。

正課教育以外の課外活動においては、人間力あるいは社会人としての基礎力育成のための活動として、学生が目的を持って自己実現を図ることを目指すさまざまな活動を支援している。それらは正課教育と相まって、学生

の自立心を養い、問題解決能力とコミュニケーション能力を高めることを目指したものである。

また、本学は、教育・研究活動と同時に地域への社会貢献を重要な大学の使命としており、地域の中で地域に貢献し地域と共に生きる大学を目指し、地域のイベント（七夕祭り等）、行政等の依頼による調査事業などを実施し、地域への公開講座、高大連携などを積極的に行っている。

更に、本学は留学生教育と国際交流を重視しており、時代が要請する大学の国際化を進めると同時に、地域の国際化を図る拠点としての役割を担っている。本学は儒学を建学の精神とすることからアジアの諸大学との交流が深く、中国語と韓国語を専門とする教員の比重も高い。留学生も中国・韓国等、アジア諸国から多く留学してきており、大学の国際化が進んでいる。また留学生は、地域の各種イベントへの参加、小学校など教育機関の訪問等、地域での国際交流に欠かせない役割を果たしている。

コロナ禍の影響を受ける中、両学部とも対面を基本とした授業を展開しつつ、一部オンライン授業も取り入れるなどハイブリッド型授業を実施している。その際、ICE モデルを用いた授業設計、資料活用や課題提出、出欠管理等に学習支援ソフト（Moodle）を活用するなど、教育の質を維持、改善することに努めてきた。

■教育研究上の基本組織

①学部構成と名称

大学等	学部	学科
東日本国際大学	経済経営学部	経済経営学科
	健康福祉学部	社会福祉学科
	留学生別科	

②学部の特徴

経済経営学部は、8コース制（公務員・教職コース、企業経営コース、経済・金融コース、デジタルコミュニケーションコース、AI・情報コース、スポーツマネジメントコース、観光マネジメントコース、エジプト考古学マネジメントコース）を通じて達成目標を明確にしつつ、少人数ゼミとその他の講義とを有機的に結びつけた教育を行うため、教養科目、共通専門基礎科目、専門科目および資格・教職課程等に関する科目というカテゴリーを設け、全体を体系的に構成している。

- (1) 教養、共通専門基礎、専門の科目を楔形に配置し、内容が有機的に結びつけられるようにしている。
- (2) 教養科目として、説得的論述を展開できる日本語運用能力と基礎的な外国語運用能力習得を目的とした科目、専門の土台となる数的理解力等の幅広い教養を育成する科目、地域に開かれた、専門知識の必要性を意識することができるような実践的科目を設定し、PBL等を実施することで課題発見・解決能力を高め、地域社会および国際社会で活躍できる人材の育成を目指している。
- (3) 共通専門基礎科目として、経済および経営、また ICT リテラシーに関する必修科目を中心に、どのコースや卒業後の進路でも、共通として必要となる経済・経営・情報の基礎的な知識・理論を習得し、広い視点から考える力を伸ばせるようにしている。

- (4) 専門科目として、各コースに対応した専門知識・理論・技能・倫理を身につけ、活用していくことを学ぶ科目を設置している。
- (5) インターンシップに至るキャリア系科目において、実践の現場と経済・経営の理論を繋ぎ、自らの目標を明確にしている。
- (6) 各学年の少人数ゼミでは、4年間を通して、調査・分析を通して主体的に学ぶ態度、他者の意見を理解しながら自分の意見を的確に表現するコミュニケーション力、課題を発見し専門的知識をベースにして解決策を提示する力を育成している。
- (7) 資格・教職課程等に関する科目として、資格取得に必要な専門知識等を特化したかたちで学べるようにしている。
- (8) 卒業研究を通じて、それまで学んできたことを有機的に結びつけ、課題を発見・解決するために知識を深め、活用し、その成果を他の人たちとコミュニケーションすることを生涯続けていける能力を育てている。
- (9) アセスメント・ポリシーを制定して、評価・改善の方法を明確化し、教育改善を行っている。

健康福祉学部は、社会情勢の変化とともに、福祉専門職を目指す学生の他に、健康および社会福祉全般について学び地域社会に貢献したいという学生を広く受け入れている。そのため、ソーシャルワークコース、スポーツ健康コース、心理福祉コース、介護福祉コースを設定している。カリキュラムは、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の国家試験受験資格取得に必要な指定科目の他、資格取得を目指さない学生に対しても柔軟に対応できるよう、教養科目、共通専門基礎科目、専門科目、資格関連科目というカテゴリーを設け、4年間を通じて体系的に学修できるようカリキュラムを構成している。

- (1) 教養科目は、基礎的なコミュニケーションスキルや学習スキルを身につける科目のほか、キャリア形成のための科目や視野を広げるための科目を設置している。
- (2) 共通専門基礎科目では、私たちが暮らす現代社会について幅広く興味や関心を持ち、社会福祉の基礎について学ぶことのできる科目を設置している。また、どの分野でも必要となる ICT リテラシーを身につけると同時に、それぞれの希望にあわせて、①ソーシャルワークの思想・制度・倫理などに関する基礎、②身体と運動の機能やコミュニケーション力の育成、③心の健康とその理解、④介護の基本とその実践方法、の中から選択して学べるように科目を配置している。
- (3) 専門科目では、①相談援助の際に必要な知識・技術・価値・倫理、②スポーツのコーチング方法、③心の健康増進と精神保健福祉、④介護の現場に必要な知識・技術・価値・倫理、などの中から選択して学べるようにしている。
- (4) 専門科目の実習教育では、地域にある福祉、医療、行政の機関および事業所等と連携して、実践を通じて、ソーシャルワークの相談援助場面や介護の現場で求められる知識、技術、価値を学修することを目指している。
- (5) 各学年の少人数ゼミでは、4年間を通して、主体的に学ぶ態度、積極的に発言する力、自分とは異なる他者を理解する力、課題を発見し専門的に解決する力を育成している。
- (6) キャリアレポートや卒業研究を通じて、それまで学んできたことを有機的に結びつけ、課題を発見し、それを克服するための知的研鑽を生涯続けられる力を育成している。
- (7) 資格関連科目として、国家資格である社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士を目指す学生を対象とした科目を開講している。

(8) アセスメント・ポリシーを制定して、評価・改善の方法を明確化し、教育改善を行っている。

■教員組織、教員数、教員の業績等

①教員数、専任教員一人あたりの学生数

(令和5年5.1現在)

学部等	専任教員数 (A)		非常勤教員数 (B)		専任比率 (A)/(A)+(B)	学生数 (C)	専任教員一人 あたりの学生 数(C)/(A)
	男	女	男	女			
経済経営学部	21	4	33	5	39.7%	599	24.0
健康福祉学部	8	7	4	4	65.2%	262	17.5
東洋思想研究所	2	0	0	0			
エジプト考古学研究所	1	0	0	0			
高等教育研究開発センター	1	0	0	0			
留学生別科	0	2	4	9	13.3%	154	77.0

②専任教員の職位、専任教員と非常勤教員の比率

(令和5年5.1現在)

学部	学科等	専任教員					非常勤 教員	比率 専任：非常勤
		教授	准教授	講師	助教	計		
経済経営学部	経済経営学科	14	9	1	1	25	38	25：38
健康福祉学部	社会福祉学科	8	4	3	0	15	8	15：8
	東洋思想研究所	1	1	0	0	2	0	—
	エジプト考古学研究所	1	0	0	0	1	0	—
	高等教育研究開発センター	1	0	0	0	1	0	—
	留学生別科	0	2	0	0	2	13	2：13
計		25	16	4	1	46	59	46：59

③専任教員の年齢構成

(令和5年5.1現在)

学部	学科等	30歳以下	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61歳以上	計
経済経営学部	経済経営学科	0	3	5	9	8	25
健康福祉学部	社会福祉学科	0	1	2	7	5	15
	東洋思想研究所	0	1	0	0	1	2
	エジプト考古学研究所	0	0	0	0	1	1
	高等教育研究開発センター	0	0	1	0	0	1
	留学生別科	0	0	1	0	1	2

計		0	5	9	16	16	46
---	--	---	---	---	----	----	----

④教員が有する学位

【経済経営学部】

(令和5年5.1現在)

氏名	職位	学位	職名	専門分野	主な担当科目
吉村作治	教授	博士 (工学)	総長	史学関係	基礎演習Ⅰ・Ⅱ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ(卒業研究)、エジプト文明論、地域活性論、比較文明論、エジプトの発掘、ハイテク考古学、エジプト発掘実習、エジプトの宗教
福迫昌之	教授	修士 (社会学)	副学長	社会学関係	キャリアガイダンス、基礎演習Ⅰ、情報社会と倫理、コミュニケーション、情報メディア、観光サービス産業論、復興学、インターンシップ、地域貢献演習A・A'、特別研究演習A'・B'
河合 伸	教授	博士 (経済学)	学部長	商学・経済学関係	基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ(卒業研究)、数的処理、経済入門、地域経済、経済史、会計、公共経済、財政、平和経済A、産業組織、人間力の育成A・B、地域貢献演習A・A'、特別研究演習A'・B'
岩戸謙介	教授	修士 (経済)	学科長	商学・経済学関係	基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ(卒業研究)、文章理解Ⅰ、日本経済、経済原論A、経済政策、国際経済、教養力養成講座、現代経済事情、公務員試験対策講座ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB
三重野 徹	教授	学士 (理学)	図書館長	経営学・情報学	基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ(卒業研究)、経営情報、経営組織、ビジネスマネジメント、経営分析、経営戦略
山田紀浩	教授	博士 (行政学)	学生副部長	法学・政治学関係	基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ(卒業研究)、韓国語ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡB、アジア事情(中国・韓国)、市民社会論、英語と多元的言語世界、韓国語講座(韓国)Ⅰ・Ⅱ、特別研究演習A'、海外研修Ⅰ・Ⅱ
二見 順	教授	博士 (工学)	教務副部長	社会・自然科学関係	基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ(卒業研究)、コンピュータ演習ⅠA・ⅠB・ⅡA、公務員試験対策講座ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB、プログラミングA・B、Webデザイン
田村立波	教授	修士 (国際文化)		文学関係	基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ(卒業研究)、アジア事情(中国・韓国)、日本事情、中国語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、日本社会基礎、日本社会理解A・B、中国語講座(中国)Ⅰ・Ⅱ、英語と多元的言語世界、論語

					素読A・B、異文化の理解と交流、日本語概論、特別研究演習A'、論語素読B、海外研修I・II
矢邊 均	教授	修士 (法学)		法学・政治学関係	基礎演習II、専門演習I、専門演習II(卒業研究)、文章理解I・II、公務員試験対策講座IA・IB・IIA・IIB・IIIA・IIIB、民商法、教職実践演習(高)、法と憲法、政治学、行政法、教育実習I・II
大崎素史	教授	修士 (教育学)		教育学関係	教育原理、教育制度、総合的な学習の時間の指導法
中野信子	教授	博士 (医学)		医学関係	脳科学基礎論
福田 徹	教授	修士 (経営学)		金融、経営学、AI関係	金融、経済情報、統計、AIの歴史、社会の中のAI
李 和貞	教授	修士 (人文科学)		教育心理学、心理学	基礎演習II、専門演習I、専門演習II(卒業研究)、教育心理学、心理学、心理学と心理的支援、心理療法I、臨床心理学、児童心理学、心理アセスメント、家族心理
青木 康晋	教授	政治学士		ジャーナリズム論、出版論、現代政治	現代マスコミ論、現代政治、基礎演習II、専門演習II(卒業研究)
竹内 茂	准教授	学士 (工学)		工学関係 その他	基礎演習I・II、専門演習II(卒業研究)、経営情報処理、インターンシップ、コンピュータ演習IIB、シミュレーション、情報システム演習、キャリアガイダンス
三浦秀樹	准教授	修士 (経済学)		商学・経済学関係	基礎演習II、専門演習I、専門演習II(卒業研究)、簿記I・II、簿記検定2級・3級、公務員試験対策講座IA・IB・IIA・IIB・IIIA・IIIB、上級簿記
大関貴久	准教授	学士 (体育学)	柔道部監督	体育学関係	基礎演習I、スポーツIA・IB、スポーツマッサージ、スポーツ科学演習A、スポーツ専門演習A、スポーツテーピング、スポーツボランティア
城山陽宣	准教授	博士 (文学)		文学関係	基礎演習I、専門演習I、専門演習II(卒業研究)、論語を学ぶI・II、中国語IA・IB、日本語IIB、日本社会基礎、論語素読A・B

ノーマン・ リー・ダウ ド	准教授	修士 (経営 学)		商学・経 済学関係	英語 IA・IB、英語と多角的言語世界
林 悠太	准教授	修士 (体育 学)		体育学関 係	基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ(卒業研究)、 コーチング事例研究Ⅰ・Ⅱ、健康スポーツ論、スポー ツコーチングⅠ・Ⅱ、スポーツマーケティング論、指 導のための理論と実践、スポーツ経営学、スポーツサ ービス産業論
下境芳典	准教授	博士 (経営 学)		経営学関 係	基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ(卒業研究)、 文章理解Ⅰ・Ⅱ、マーケティング、教養力養成講座、 経営入門、公務員試験対策講座 IA・IB・IIA・IIB・ IIIA・IIIB
南雲勇多	准教授	修士 (開発教 育学)		教育学関 係	基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ(卒業研究)、 グローバル市民教育論 A・B、地域課題解決学 A・B、キ ャリアデザイン、平和経済 B
ペレライン 由紀	准教授	ポストグ ラデュエ ートディ プロマ (情報技 術)		教育工学 科学教育	情報処理入門、AI プログラミング演習、基本情報技術 A・B、基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅰ
飯村祥之	講師	修士 (文学)		思想史	文章理解Ⅰ、英語 IA・IB、英語と多角的言語世界、 公務員試験対策講座 IA・IB・IIA・IIB・IIIA・IIIB、 上級英語 IIA・IIB、基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅰ、専門演 習Ⅱ(卒業研究)
宍戸清美	助教			情報学基 礎	プログラミング A・B、Web デザイン、コンピュータ演 習 IA・IB・IIA・IIB、特別研究演習 B'

※上記一覧には職員との兼務者 1 名を含む。

経済経営学部の担当教員一覧

https://www.shk-ac.jp/faculty_information01_04.html

【健康福祉学部】

(令和5年5.1現在)

氏名	職位	学位	職名	専門分野	主な担当科目
中山哲志	教授	修士 (リハビリテーション)	学長 学部長	社会学関係(社会事業関係を含む)	福祉環境論、精相談援助演習ⅠA・ⅠB、少子高齢化社会概論、生涯スポーツ論、ソーシャルワーク演習
田中みわ子	教授	博士 (文学)	学科長	社会学関係(社会事業関係を含む)	基礎演習ⅠA・ⅠB、専門演習Ⅰ・Ⅱ、キャリア演習Ⅰ・Ⅱ、コミュニケーションⅠ、就労支援サービス、障害の理解Ⅰ・Ⅱ、障害者福祉Ⅰ・Ⅱ、障害原理論、
今野久寿	教授	学士 (社会福祉学)		社会学関係(社会事業関係を含む)	基礎演習ⅡA・ⅡB、ソーシャルワーク実習指導(社福)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ソーシャルワーク実習(社福)、ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク演習(専門・社福)Ⅳ、貧困に対する支援、権利擁護を支える法制度
千葉陽子	教授	学士 (体育学)		体育学関係	基礎演習ⅡA・ⅡB、キャリア演習Ⅰ・Ⅱ、スポーツ科学演習A、障害者スポーツ論A、生涯スポーツ論、スポーツボランティア、スポーツ専門演習A
矢本 聡	教授	修士 (教育学)	教務 副部長	教育学関係	基礎演習ⅠA・ⅠB、基礎演習ⅡA・ⅡB、キャリア演習Ⅰ・Ⅱ、精神科リハビリテーション学Ⅰ・Ⅱ、コミュニケーションⅡ、ソーシャルワーク演習(専門・精神)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、現代の精神保健の課題と支援Ⅰ・Ⅱ、精神障害リハビリテーション論、ソーシャルワーク実習、小児発達支援論Ⅰ・Ⅱ、
大橋雅啓	教授	修士 (社会学・社会福祉学)		社会福祉学	専門演習Ⅰ・Ⅱ、キャリア演習Ⅰ・Ⅱ、更生保護制度、精神保健福祉論Ⅰ・Ⅱ、精神保健福祉行政論、国際社会福祉論、精神保健福祉の原理Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク演習(専門・社福)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ソーシャルワーク実習指導(精神)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ソーシャルワーク実習、刑事司法と福祉、
金成明美	教授	修士(社会福祉学)		社会学関係	基礎演習ⅡA・ⅡB、専門演習Ⅰ・Ⅱ、キャリア演習Ⅰ・Ⅱ、介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、介護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、介護総合演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、特別研究演習ⅡA・ⅡB

田中 渡	教授	修士 (英語学)		英米文学	基礎演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、英語ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、上級英語ⅠA・ⅠB、英語講座(英国)Ⅰ、英語文化、英語と多元的言語世界、コミュニケーションⅠ
清水茂徳	准教授	修士 (社会福祉学)		社会学関係(社会事業関係を含む)	基礎演習ⅡA・ⅡB、専門演習Ⅰ・Ⅱ、キャリア演習Ⅰ・Ⅱ、セクシュアルヘルス、精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ・Ⅱ、保健医療サービス、ストレスマネジメント論、ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ、精神保健福祉制度論Ⅰ・Ⅱ、発達障害児療育論、福祉レクリエーション、ソーシャルワークの理論と方法(専門・精神)Ⅰ・Ⅱ、保健医療と福祉、
志賀恵子	准教授		学生副部長 保健管理センター長	看護学関係	基礎演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、キャリア演習Ⅰ・Ⅱ、こころとからだのしくみⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、医療的ケアⅠ・Ⅱ、生活支援技術Ⅴ、認知症の理解Ⅰ・Ⅱ
山本美晴	准教授	学士(経済学士)		社会福祉学、地域福祉学、介護福祉学関係(社会事業関係を含む)	基礎演習ⅡA・ⅡB、高齢者福祉Ⅰ・Ⅱ、社会福祉概論、地域福祉と包括的支援体制Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク実習(社福)、ソーシャルワーク演習(専門・社福)Ⅳ、ソーシャルワークの理論と方法(専門・社福)Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導(社福)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、公務員試験対策講座ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB
宮村りさ子	准教授	修士(健康心理学)		精神保健福祉、健康心理学、臨床心理学	専門演習Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークの基盤と専門職、ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)、児童・家庭福祉Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク実習(社福)、ソーシャルワーク演習(専門・社福)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、ソーシャルワーク実習指導(社福)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、国家試験対策講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
西野勇人	講師	修士 (社会学)		社会学関係(社会事業関係を含む)	基礎演習ⅠA・ⅠB、専門演習Ⅰ・Ⅱ、キャリア演習Ⅰ・Ⅱ、社会保障Ⅰ・Ⅱ、高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ、社会福祉関係法論、福祉行財政と福祉計画Ⅰ・Ⅱ、社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ、アカデミックライティング、国家試験対策講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
後藤美緒	講師	博士 (社会学)		社会学関係(社会事業関係を含む)	基礎演習ⅡA・ⅡB、専門演習Ⅰ・Ⅱ、社会学(社会と人間)、生命倫理学Ⅰ・Ⅱ、福祉まちづくり論、社会学と社会システム、社会福祉調査の基礎、コミュニケーションⅡ、家族関係論Ⅰ・Ⅱ

古市俊秋	講師	社会学士		介護福祉 社会福祉	人間の尊厳と自立、人間関係とコミュニケーションⅠ・Ⅱ、社会の理解Ⅰ・Ⅱ、介護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱ、介護の基本ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB
------	----	------	--	--------------	--

健康福祉学部の担当教員一覧

https://www.shk-ac.jp/faculty_information02_04.html

【東洋思想研究所】

(令和5年5.1現在)

氏名	職位	学位	職名	専門分野	主な担当科目
遠藤孝紀	教授	修士 (文学)		文学関係	
三浦健一	准教授	修士 (公共政策学)		社会学関係	基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ(卒業研究)、観光学入門、人間力の育成A・B

専任研究員紹介

http://shk-ac.jp/lab_touyou_researcher.html

【エジプト考古学研究所】

(令和5年5.1現在)

氏名	職位	学位	職名	専門分野	主な担当科目
黒河内 宏昌	教授	修士 (工学)		史学関係	エジプト発掘演習、エジプト建築史、エジプト発掘実習、ハイテク考古学

専任研究員紹介

https://www.shk-ac.jp/lab02_03.html

【高等教育研究開発センター】

(令和5年5.1現在)

氏名	職位	学位	職名	専門分野	主な担当科目
関沢和泉	教授	博士 (言語学)	教務部長	文学関係	基礎演習Ⅰ、情報処理演習ⅠA・ⅠB、日本社会理解A・B、英語と多角的言語世界、言語学、言語教育史、日本語概論、哲学概論、倫理学、日本語演習A・B

■入学、卒業、修了及び進路の状況

①東日本国際大学のアドミッション・ポリシー

東日本国際大学では、カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)に定める教育を通じて、ディプロマポリシー(卒業認定・学位授与の方針)に示す卒業生を送り出すために、求める学生像及び受け入れの方針として次の項目を掲げています。

A. 求める意欲・関心

本人の意欲・関心として以下を求め、面接や調査書、志願者本人が記載する資料等により確認します。

1. 見学の精神を理解し、倫理観の高揚を図る意欲のある人

2. 社会人としての基礎能力を身につけ、その上に専門知識の習得を目指す人
3. 勉学およびスポーツ・文化・社会活動等を通して豊かな人間性を発展させたい人
4. 修得した知識や能力を活かし地域社会・国際社会に貢献する強い意欲を持っている人

B. 求める学力の3要素

高校までに習得した学力の3要素として以下を求め、筆記試験や調査書、志願者本人が記載する資料、面接等により確認します。

1. 〈知識・技能〉各専門分野を学ぶために最低限必要となる教科の内容を学習していること
2. 〈思考力・判断力・表現力〉学習した内容を活用して、さまざまな課題を解決していくために思考・判断しようとして努力し、それを他者に伝える表現を試みられること
3. 〈主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度〉自ら積極的に、さまざまな人々とコミュニケーションを取り、協働して活動しようとしてできること

C. 入学者選抜方針

上記のAとBを兼ね備えた入学者を選抜するために、多様な入学選考を実施します。各入試において上記を確認するものは面接・調査書・小論文・自己推薦書・履歴書・志願理由書・学科筆記試験等

②経済経営学部のアドミッション・ポリシー

A. 求める意欲・関心

本人の意欲・関心として以下を求め、面接や調査書、志願者本人が記載する資料等により確認します。

1. 経済・経営の幅広い分野に興味を持っている人
2. 将来の社会人・経済人として必要不可欠なICTや経営の知識とスキルを身につけたい人
3. 国際経済や地域経済に関心を持ち、その発展に貢献したいという強い意欲を持っている人
4. 社会に必要な基礎能力と自らの得意とする分野の専門知識の両方を高めたい人

B. 求める学力の3要素

高校までに習得した学力の3要素として以下を求め、筆記試験や調査書、志願者本人が記載する資料、面接等により確認します。

1. 〈知識・技能〉経済経営学部の各コースで学ぶために最低限必要となる教科の内容を学習していること
2. 〈思考力・判断力・表現力〉学習した内容を活用して、さまざまな課題を解決していくために思考・判断しようとして努力し、それを他者に伝える表現を試みられること
3. 〈主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度〉自ら積極的に、さまざまな人々とコミュニケーションを取り、協働して活動しようとしてできること

C. 入学者選抜方針

上記AとBを兼ね備えた入学者を選抜するために、多様な入学選考を実施します。各入試において上記を確認するものは面接・調査書・小論文・自己推薦書・履歴書・志願理由書・学科筆記試験等

③健康福祉学部アドミッション・ポリシー

A. 求める意欲・関心	
本人の意欲・関心として以下を求め、面接や調査書、志願者本人が記載する資料等により確認します。	
1. 福祉・健康・スポーツの幅広い分野に興味を持っている人	
2. 社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の国家資格取得を目指す人	
3. 地域福祉の向上に貢献したいという強い意欲を持っている人	
4. 福祉国家・福祉社会の発展のために、福祉の知識を広く社会で活かしたい人	
B. 求める学力の3要素	
高校までに習得した学力の3要素として以下を求め、筆記試験や調査書、志願者本人が記載する資料、面接等により確認します。	
1. 〈知識・技能〉健康福祉学部の各コースで学ぶために最低限必要となる教科の内容を学習していること	
2. 〈思考力・判断力・表現力〉学習した内容を活用してさまざまな課題を解決していくために思考・判断しようとして努力し、それを他者に伝える表現を試みられること	
3. 〈主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度〉自ら積極的に、さまざまな人々とコミュニケーションを取り、協働して活動しようとしてできること	
C. 入学者選抜方針	
上記のAとBを兼ね備えた入学者を選抜するために、多様な入学選考を実施します。各入試において上記を確認するものは面接・調査書・小論文・自己推薦書・履歴書・志願理由書・学科筆記試験等	

④入学者数、専任教員一人あたりの学生数、定員充足率

(令和5年.5.1現在)

学 部	学 科	入学者の状況		在校生の状況 (1~4年生)		専任教員 一人あたり の学生数	収容定員 充足率
		定員	入学者数	定員	在学生数		
経済経営学部	経済経営 学科	145	160	580	599	24.0人	103.2%
健康福祉学部	社会福祉 学科	60	66	240	262	17.5人	109.2%
計		205	226	820	861	21.5人	105.0%

【別記】

学 部	学 科	入学者の状況		在校生の状況 (1~2年生)		専任(兼担 含む)教員 一人あたり の学生数	収容定員 充足率
		定員	入学者数	定員	在学生数		
	留学生別科	80	41	160	154	38.5人	96.3%

⑤社会人受入数、留学生数、留年者数

(令和5年.5.1現在)

学 部	学 科	社会人 学生数	留学生数	留年者数
経済経営学部	経済経営学科	1	78	10
健康福祉学部	社会福祉学科	0	12	6

計	1	90	16
---	---	----	----

⑥入学生の推移

(令和5年.5.1現在)

学 部	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
経済経営学部	133	142	167	188	182	124	160
健康福祉学部	66	55	74	65	59	73	66
計	199	197	241	253	241	197	226

【別記】

学 科	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
留学生別科	97	45	10	9	1	42	18

*注：経済経営学部・健康福祉学部は平成28年4月、経済情報学部・福祉環境学部からそれぞれ名称を変更。

⑦退学者数、除籍者数、中退率、海外派遣 (令和4年度実績)

(令和5年.5.1現在)

学 部	学 科	退学者数	除籍者数	中退率	海外派遣 学生数
経済経営学部	経済経営学科	25	7	4.17%	0
健康福祉学部	社会福祉学科	13	2	4.96%	0
計		32	38	9	4.41%

【別記】

(令和5年.5.1現在)

学 部	学 科		退学者数	除籍者数	中退率	海外派遣 学生数
	留学生別科	春学期	0	0	0.0%	0
		秋学期	0	0	0.0%	0

⑧卒業・修了者数、学位授与数、進学者数、就職者数 (令和4年度実績)

学 部	学 科	卒業者数	学位授与数	進学者数	就職者数
経済経営学部	経済経営学科	121	121	0	107
健康福祉学部	社会福祉学科	69	69	0	59
計		190	190	0	166

【別記】

学 部	学 科	修了・修業者数	学位授与数	進学者数	就職者数	その他
	留学生別科	22	-	19	0	3

⑨進路状況（令和4年度実績）

学部	学科	卒業生数	就職希望者数	その他	就職者数	就職率
経済経営学部	経済経営学科	121	107	14	107	100%
健康福祉学部	社会福祉学科	69	59	10	59	100%
計		190	166	24	166	100%

⑩主な進路先

http://shk-ac.jp/career_job_data_date.html

■授業科目、授業の方法・内容・計画

①全学共通の教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 少人数のゼミ（演習）を全学年で必修とし、初年次教育、基礎的専門教育、専門教育、卒業研究指導、就職活動支援を一貫してきめ細かな指導と対応を通じて行い、学習ポートフォリオを通じて振り返りの能力を深めることで、明確な目標を形成し、専門的知識と汎用的な技術と能力を活用し、他者と協働できる力を伸ばします。
2. 東日本国際大学の建学の精神である儒学に関する知識・理解を深めるための科目を設定し、義を行う意欲と寛容の精神を育てます。
3. 日本語や外国語の運用能力、ICT リテラシーなど社会人としての基礎力である汎用的コミュニケーションスキルを習得する科目、文化、社会、自然科学、スポーツ等を通じて、さまざまなコンピテンシーを含む基礎的な教養を身につける一般教養科目を設けます。
4. 国際交流関連科目等においてさまざま文化への理解と自己の文化を振り返る力を育成し、地域連携系科目を通じて、課題発見力や地域への貢献の意欲を引き出します。
5. キャリア形成・資格取得に関する科目を設け、学生が当初より自らのキャリア・デザインを描くことができるようにします。
6. カリキュラムツリー等を利用し、科目の間の体系性や構造を明示します。
7. アセスメント・ポリシーを制定して、評価・改善の方法を明確化し、教育改善を行います。

②経済経営学部の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 教養、共通専門基礎、専門の科目を楔形に配置し、内容が有機的に結びつけられるようにします。

2. 教養科目として、説得的論述を展開できる日本語運用能力と基礎的な外国語運用能力習得を目的とした科目、専門の土台となる数的理解力等の幅広い教養を育成する科目、地域に開かれた、専門知識の必要性を意識することができるような実践的科目を設定し、PBL 等を実施することで課題発見・解決能力を高め、地域社会および国際社会で活躍できる人材の育成を目指します。
3. 共通専門基礎科目として、経済および経営、また ICT リテラシーに関する必修科目を中心に、どのコースや卒業後の進路でも、共通として必要となる経済・経営・情報の基礎的な知識・理論を習得し、広い視点から考える力を伸ばせるようにします。
4. 専門科目として、各コースに対応した専門知識・理論・技能・倫理を身につけ、活用していくことを学ぶ科目を設置します。
5. インターンシップに至るキャリア系科目において、実践の現場と経済・経営の理論を繋ぎ、自らの目標を明確にします。
6. 各学年の少人数ゼミでは、4年間を通して、調査・分析を通して主体的に学ぶ態度、他者の意見を理解しながら自分の意見を的確に表現するコミュニケーション力、課題を発見し専門的知識をベースにして解決策を提示する力を育成します。
7. 資格・教職課程等に関する科目として、資格修得に必要な専門知識等を特化したかたちで学べるようにします。
8. 卒業研究を通じて、それまで学んできたことを有機的に結びつけ、課題を発見・解決するために知識を深め、活用し、その成果を他の人たちとコミュニケーションすることを生涯続けていける能力を育てます。
9. アセスメント・ポリシーを制定して、評価・改善の方法を明確化し、教育改善を行います。

③健康福祉学部の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 教養科目は、基礎的なコミュニケーションスキルや学習スキルを身につける科目のほか、キャリア形成のための科目や視野を広げるための科目を設置します。
2. 共通専門基礎科目では、生命の誕生と終わりについて考え、また社会福祉の基礎について学び、どの分野でも必要となる ICT リテラシーを身につけると同時に、それぞれの希望にあわせて、①福祉の思想・制度・倫理などに関する基礎、②身体と運動の機能やコミュニケーション力の育成、③心の健康とその理解、④介護の基本とその実践方法、の中から選択して学べるように科目を配置します。
3. 専門科目では、①相談援助の際に必要な知識・技術・価値・倫理、②スポーツのコーチング方法、③心の健康増進と精神障害者への支援方法、④介護の現場に必要な知識・技術・価値・倫理、などの中から選択して学べるようにします。
4. 専門科目の実習教育では、地域の福祉施設・機関と連携して、相談援助・介護の現場において、それまで学んだことを実践と結びつけ、知識を体系化することを目指します。
5. 各学年の少人数ゼミでは、4年間を通して、主体的に学ぶ態度、積極的に発言する力、自分とは異なる他者を理解する力、課題を発見し専門的に解決する力を育成します。
6. キャリアレポートや卒業研究を通じて、それまで学んできたことを有機的に結びつけ、課題を発見し、それを克服するための知的研鑽を生涯続けられる力を育てます。
7. 資格関連科目として、国家資格である社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士を目指す学生を対象と

した科目を開講します。

8. アセスメント・ポリシーを制定して、評価・改善の方法を明確化し、教育改善を行います。

<学 則> https://www.shk-ac.jp/university_information03_02.html

<カリキュラム表>

経済経営学部 https://www.shk-ac.jp/faculty_information01_07.html

健康福祉学部 https://www.shk-ac.jp/faculty_information02_06.html

④講義概要（シラバス）

経済経営学部シラバス

教養科目 <https://sl.tonichi-kokusai-u.ac.jp/syllabus/search.aspx>

共通専門基礎科目 <https://sl.tonichi-kokusai-u.ac.jp/syllabus/search.aspx>

専門科目 <https://sl.tonichi-kokusai-u.ac.jp/syllabus/search.aspx>

資格・教職課程等に関する科目

<https://sl.tonichi-kokusai-u.ac.jp/syllabus/search.aspx>

健康福祉学部のシラバス

教養科目 <https://sl.tonichi-kokusai-u.ac.jp/syllabus/search.aspx>

共通専門基礎科目 <https://sl.tonichi-kokusai-u.ac.jp/syllabus/search.aspx>

専門科目 <https://sl.tonichi-kokusai-u.ac.jp/syllabus/search.aspx>

資格関連科目 <https://sl.tonichi-kokusai-u.ac.jp/syllabus/search.aspx>

⑤履修モデル

学部・研究科等	修業年限	必要修得単位数	科目区分ごとの修得単位数				修得可能な学位
			科目区分名	必修	選択必修	合計	
経済経営学部	4年	124単位	教養	14単位	2科目	30単位以上	学士 (経済学)
			共通専門基礎	12単位	—	20単位以上	
			専門	20単位	—	46単位以上	
健康福祉学部	4年	124単位	教養	10単位	2科目	24単位以上	学士 (社会福祉学) ・(精神保健福祉学)
			共通専門基礎	22単位	—	60単位以上	

			専門	16 単位	—	40 単位 以上	
--	--	--	----	-------	---	-------------	--

⑥学年暦 https://www.shk.ac.jp/college_life01_01.html

■卒業・修了の要件及び取得学位等

①全学共通のディプロマ・ポリシー

1. 建学の精神である儒学を理解し、義を行わんとする強い意欲と寛容の精神をもち行動ができること。
2. 教養として文化・社会・自然等に関する知識や社会人として必要な言語運用能力・ICT リテラシーなど汎用的な技術と能力を身につけ、活用できること。
3. 他者と共に働き、社会を創る主体的な成員としての態度・倫理観・社会的コミュニケーション能力を身につけ、状況に応じて活用できること。
4. 自身の文化を知り、多文化社会への理解と国際交流・異文化交流に努める能力と意志をもち行動できること。
5. 課題を発見し解決する力を身につけ、地域社会やその他の属するコミュニティの発展に貢献する能力と意志をもち行動できること。
6. これらの知識・技能・態度等を、状況に応じて総合的に動員できる応用力・創造力を発揮できること。
7. 生涯を通して状況に応じて自ら学び、知識を深め、活用できるようになること。

②経済経営学部のディプロマ・ポリシー

1. 社会や企業で活躍するために必要な日本語力、基礎的な外国語力、数的理解力、ICT リテラシーや目標に応じた情報処理技術を身につけ、それらを他の人たちと協働して活用するためのコミュニケーションスキルを備えていること。
2. 経済に関する基礎知識および抽象的思考能力・論理的思考能力・全体を総合的に把握する能力を身につけることで、人生における課題設定・解決能力を高め、グローバルな市民としての社会的責任を果たす役割を自覚できること。
3. 経営に関する基本的な考え方や理論を理解し、それを活用することで社会や生活の持続的発展に向けて、さまざまな社会的課題を考察できること。
4. 職場や生活のさまざまな場面において、自発性と自己規律のもとで、国際的視野にたつて他者と協働して目標に向かって行動する能力を身につけていること。
5. 社会人としての義務と責任を果たす意志と能力を備え、生涯を通して、多様な価値観と向き合い、地域経済ならびに国際経済の発展に寄与できること。

③健康福祉学部のディプロマ・ポリシー

1. 現代社会における複雑な社会問題に関心をよせ、生涯を通して、課題を発見しそれを克服するための知的研鑽が続けられること。

2. 社会福祉領域のみならず広く社会で活躍するために必要な語学能力および ICT リテラシーを身につけていること。
3. 多文化共生の視点から異なる文化的な背景をもつ人や社会に関心を持ち、マイノリティならびに異文化を理解し、多様な価値観を認める社会の形成に積極的に関わろうとする態度が備わっていること。
4. 高度な対話力を身につけると同時に、国際的視野にたつて他者と協働できる能力が備わっていること。
5. 福祉専門職（社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士）に必要とされる知識、技能、態度、倫理、価値、技術を身につけ、地域の生活課題に主体的に取り組む姿勢をもつこと。

④取得可能な免許及び資格について

経済経営学部 https://www.shk-ac.jp/faculty_information01_05.html

健康福祉学部 https://www.shk-ac.jp/faculty_information02_05.html

⑤学位授与・授与率

学 部	令和元年度入学者数	令和4年度学位授与数	授与率
経済経営学部	158	114	72.2%
健康福祉学部	74	58	78.4%

※令和元年4月入学生対象

■学生生活及び就職支援について

①教務部・学生部

専門の部署として教務部・学生部が設置されている。教務部では、主に学生の履修や授業に関する事務・支援及び学籍に関する事務を取り扱う。学生部では、学生生活を円滑に送れるようにする支援を行う。主に奨学金に関する事務・支援や学生証、学生定期、学割等の発行に関する事務・支援を取り扱う。

本学の特徴はすべての学部で各学年においてゼミが必修となっており、学生は何らかのゼミに所属しているので、履修からはじまる学修のプロセスの指導や生活の相談は、各ゼミが中心となり、教務部・学生部も共同して行われている。

詳細：https://www.shk-ac.jp/college_life05_01.html

②キャリアセンター

学生ひとり一人の将来の進路や人生における働き方や生き方を考え、目先の就職という“点”で考えるのではなく、人生の終焉までの“線”を通して考えてもらう支援をしております。具体的な実施内容として、下記の活動を行っております。

1. ゼミを中心とし、学生、保護者、大学が三位一体となった新しいキャリア教育体制を築く。
2. ゼミ担当者がキャリアセンターと連携し、各年次に応じたキャリア教育のアドバイザーとなり、キャリアに関する各学年のゼミ会議を開催すると同時に、保護者会等を通じて保護者への情報提供と連携を行なう。

3. キャリア講座および資格講座の充実を図る。
4. キャリアセンターにおいて求人開拓、キャリア教育、インターンシップ、就職相談、教員に対するキャリア教育等、キャリア関連の各種業務を企画・統括する。
5. キャリアセンターにおける情報システムの整備、ならびにキャリア・アドバイザーの活用を行なう。

詳細：http://www.shk-ac.jp/career_support_support.html

③保健管理センター

保健管理センターは、学生・教職員の健康の保持増進を図るため、定期及び臨時の身体測定、健康診断、並びに救急処置、各種健康相談（メンタルヘルス等を含む）、保健指導、健康教育、環境衛生及び感染症の予防についての指導等、その他健康の保持増進についての必要な業務をおこなうところです。

そのために、簡単な測定検査用具・救急処置薬品・衛生器材・休養ベッド等が設置されています。

詳細：http://www.shk-ac.jp/college_life_support_health.html

④学生相談室

本学学生の身体的な健康・心の悩み等さまざまな各種健康相談やメンタルヘルスの支援に応じています。

■その他の教育研究上の情報

①海外の諸学校との協定状況

- ・曲阜師範大学（中国）・曲阜師範学校（中国）・山東大学（中国）・安徽大学（中国）・香港孔教学院（中国）・中国政法大学（中国）・大連民族大学（中国）・撫順師範高等専科学校（中国）・瀋陽体育学院（中国）・和春技術学院（台湾）・開南大学（台湾）・成均館大学校（韓国）・金浦大学（韓国）・世京大学（韓国）・ハワイ州カウアイ・コミュニティカレッジ（アメリカ）・ファースト・グローバル・コミュニティ・カレッジ（タイ）・慶南大学校（韓国）・カンタベリー・クライスト・チャーチ大学（イギリス）・日本メキシコ学院（メキシコ）
- ワシントン州立大学トライシティーズ校（アメリカ）・コロンビアベイスン短期大学（アメリカ）

②「英語講座（英国）」実施

生きた語学力と国際的視野を身に付けることができ、よりグローバルな人間形成が出来ることを目指した第7回「英語講座（英国）」を、下記の内容で実施した。

2023年2月15日（水）～3月17日（金）の期間で英国カンタベリー・クライスト・チャーチ大学（Canterbury Christ Church University；CCCU）において実施され、本学学部学生6名及び引率教員2名が参加した。

【日程・内容】

- 2月15日（水）～16日（木）大学出発及び英国カンタベリーに移動
- 2月17日（金）入校手続き
- 2月18日（土）カンタベリー市内見学
- 2月20日（日）～3月10日（金）大学にて英語講義受講（修了式）

- 3月11日（土）カンタベリーよりロンドンへ移動
- 3月12日（日）～15日（水）ロンドン市内見学
- 3月16日（木）イギリス出国
- 3月17日（金）大学到着、解散

③社会貢献活動

本学は、「地域連携」を大学の理念とし、「地域に信頼され愛される大学」、「地域に開かれ貢献できる大学」、「『地域経済』『地域福祉』」に関するシンクタンクとなりうる大学を目指している。

1. 「高大連携プログラム」

「高大連携プログラム」（大学と高等学校の間で協定書を締結して長期的な相互交流）は、高等学校サイドの勉学動機の不足、あるいは安易な資格取得志向などの悩みと大学サイドの優秀な学生の確保や高い勉学動機を持つ学生の確保などの悩みをも同時に解決するためのもので、その実施状況は下表のとおりである。

対象高等学校名	内 容
県立平商業高等学校 本学附属昌平高等学校	－高校生が本学の授業を大学生と一緒に履修するという形態 －当該生徒が本学に進学した際には、本学の単位（事前修得単位）として認定
県立いわき総合高等学校、茨城県立高萩清松高等学校	－教員が高校に出向く形態 －単位は高校側でのみ認定

2. 「市民を対象としたプログラム」

「市民を対象としたプログラム」は次頁のとおりである。

「市民対象プログラム」の概要

プログラム名	内 容
科目等履修生制度	単位認定を伴う社会人のための生涯学習の場（単位認定あり）。
市民開放授業	単位認定を伴わずに、市民に特定の講座を開放する（無料、単位認定なし）。
ふれあい出前講座	高校生を含む市民を対象に、求めに応じて本学教員が出向いて講義を行うもの（無料、単位認定なし）。
論語素読教室	毎週土曜日に学内の大成殿において一般市民と本学教員も関与した素読会。学生も参加できる。
いわきヒューマンカレッジ	市が主催する市民大学。本学は経済・福祉に関する内容を担当。
昌平図書館開放	市民開放として、平日は午後6時、土曜日は午後1時まで開館。

	現在、いわき市内図書館（大学、高専及び市立）間ネットワーク利用が可能となっている。
--	---

③地域・産学官との連携

本学では、いわき市「大学等と地域の連携したまちづくり推進事業」を実施し、市から委託された各種調査・研究事業を実施してきた。また、平成 30 年度からは、産学官民による「いわきアカデミア協議会」に移行し、「大学生地域実践ゼミ」として調査・実践活動を行っている。近年の実績としては、

1. 平成 23 年度「いわき市物産品および観光商品の高度化と体制整備による風評被害克服・地域活性化のための調査・実証実験事業」
2. 平成 24～25 年度「大型商業施設と地元産業（商業・農林水産業）に関する研究」、平成 25 年度「介護予防事業の効果検証と今後の方策について」、「授産製品の販路拡大と新たな商品・サービス開発」
3. 平成 26 年度「公園施設などを用いた興行によるシティーセールス、交流人口の拡大、地域経済波及に関する研究」
4. 平成 27 年度「いわき市を核とした連携中枢都市圏構想に関する調査研究」
5. 平成 28 年度「いわき市のインバウンド情報発信の効果的展開に関する調査研究」
6. 平成 29 年度「いわき市のインバウンド発信・シティーセールスの推進に関する実践的研究」

平成 24～25 年度には「第 4 次いわき市障がい者計画策定委託業務」を受託し、市内アンケート調査およびその結果を踏まえた計画策定を行った。

平成 25 年度には「オールスターゲーム・ふくしま復興祭開催による地域への波及効果に関する研究委託」事業を実施した。

平成 30 年度から、「大学生地域実践ゼミ」として A) 外国人留学生を軸としたインバウンド観光開発プロジェクト、B) 田人町貝泊地区の地域資源を活用した交流人口増加プロジェクト、を実施している。

また、広野町との連携協定に基づき、平成 30 年度から「心の復興事業」を実施している。

さらに、令和 2 年 1 月には、福島県浜通り地域の復興と発展に向けた連携協力協定書を、いわき市、広野町、檜葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村と学校法人昌平齋間で締結した。

④他大学との連携

平成 23(2011)年度から、医療創生大学（旧：いわき明星大学）との連携による「福島県いわき地域の大学連携による震災復興プロジェクト（大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業）」において、被災地の情報発信による観光まちづくり事業と被災障がい者自立支援推進事業を進めている。

福島県内の大学と単位互換協定を結んでおり、その受け入れについては「東日本国際大学特別聴講学生規程」として明文化されている。なお、本学の学生が他大学の講義を受講した場合にも互換協定等に沿って処遇されるが、今のところ実績は無い。

平成 21(2009)年度からは、福島大学が主宰する“アカデミア・コンソーシアムふくしま”（ACF）に参画し積極的な対応を行っている。

平成 27（2015）年度からは、文科省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」「ふくしまの未来を担う地域循環型人材育成の展開」に参加し、福島県内の高等教育機関 4 校が連携しながら、福島の地域を担

う人材育成事業を展開しており、本学ではスポーツと福祉分野での地域連携に取り組み、継続している。

平成 29 (2017) 年度には長崎大学と協定を結び、川内村での集中講義を共同で開催している。

平成 30 (2018) 年 1 月から、福島工業高等専門学校と連携協定書を結び、教育・研究分野における緊密な連携・協力関係を構築している。

平成 30 (2018) 年 3 月から、大正大学との連携協定書を結び、地域社会の振興・創世及び東日本大震災により被災した地域の復興に寄与するために、教育・研究・社会貢献分野における緊密な連携・協力関係を構築することに合意している。

平成 30 (2018) 年 9 月には、医療創生大学 (旧 : いわき明星大学)、福島工業高等専門学校及び地元の自治体、経済団体と「福島浜通り復興創世コンソーシアム」を設立した。

令和 4 年 9 月には、米国ハンフォード地域に立地するワシントン州立大学トライシティーズ校及びコロンビアベイスン短期大学と東日本国際大学は、連携協力協定を締結した。この協定に基づき、令和 5 年 3 月に、東日本国際大学の学生 3 名を米国ハンフォード地域学生研修に派遣した。

■校地・校舎等 学生の教育研究活動の環境

所在地	〒970-8567 福島県いわき市平鎌田字寿金沢 37
主な交通手段	常磐線いわき駅下車
キャンパス概要	【キャンパスマップ・アクセスマップ】 http://www.shk-ac.jp/info_access_access_map.html

<p>運動施設の概要</p>	<p>【機能・規模】</p> <p>○運動場</p> <p>本学には、キャンパスに付設して第一運動場(鎌田石名坂)、弓道場、柔道場がある。また近郊に第二運動場(小川町大坂)と屋内野球練習場が整備されている。</p> <p>○体育館</p> <p>本学における体育館は、体育の授業のほか、強化指定部となっているバドミントン部、卓球部の練習の場にもなっている。</p> <p>これらの運動場施設の規模と用途は以下の通り</p> <table border="1" data-bbox="488 616 1406 999"> <thead> <tr> <th>施設名称</th> <th>用途</th> <th>面積 m²</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一運動場</td> <td>一般運動場</td> <td>6,127.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第二運動場</td> <td>野球場・サッカー場</td> <td>53,972.57</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鬘道館</td> <td>柔道場</td> <td>836.4</td> <td>330 畳</td> </tr> <tr> <td>屋内野球練習場</td> <td>野球</td> <td>1,851.08</td> <td></td> </tr> <tr> <td>弓道場</td> <td>弓道</td> <td>97.78</td> <td></td> </tr> <tr> <td>体育館</td> <td>授業・部活動</td> <td>1,694.4</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	施設名称	用途	面積 m ²	備考	第一運動場	一般運動場	6,127.5		第二運動場	野球場・サッカー場	53,972.57		鬘道館	柔道場	836.4	330 畳	屋内野球練習場	野球	1,851.08		弓道場	弓道	97.78		体育館	授業・部活動	1,694.4	
施設名称	用途	面積 m ²	備考																										
第一運動場	一般運動場	6,127.5																											
第二運動場	野球場・サッカー場	53,972.57																											
鬘道館	柔道場	836.4	330 畳																										
屋内野球練習場	野球	1,851.08																											
弓道場	弓道	97.78																											
体育館	授業・部活動	1,694.4																											
<p>課外活動の状況</p>	<p>本学では、課外活動を通じて人間力あるいは社会人としての基礎力育成のため、学生が目的を持って自己実現をはかることについて、さまざまな支援を行っている。</p> <p>学生の課外活動には、行政や他大学との連携などの様々な学外活動や、学友会活動を中心とした自治活動がある。学友会活動には、運動部、サークル活動等も含まれる。学友会は、学生の自治組織であり、活動費は学会費により賄われている。</p> <p>主要事業として、①鎌山祭(学園祭)の実施(いわき短期大学と共催)、②いわき踊り(いわき市内)への参加、③卒業式に連動した謝恩会の実施などが挙げられる。また、学友会組織は、会長、副会長、会計等の役員と中心として、各種行事への学生参加率の向上を図るため1~3年次ゼミや強化指定部との連絡を密にしている。なお、学友会規約に従い、学生部長が顧問、学生委員が監事として、連携・指導を行っている。さらに、部活動の中でも、①硬式野球部、②柔道部、③弓道部、④バドミントン部、⑤卓球部、⑥サッカー部、⑦吹奏楽部の7部が強化指定部として法人より指定され、高い実績をあげている。これらの強化指定部には、法人指定強化部に対する特別補助取扱要領に基づいて、技術力向上のための財政的支援を行っている。</p>																												
<p>【施設設備整備】</p>	<p>本学は、JR常磐線いわき駅より徒歩15分の閑静な小高い鎌田山に併設しているいわき短期大学とともに立地しており、キャンパス設備の殆どはこの地に、あるいは徒歩可能な範囲に弓道場、柔道場、第一運動場と学生駐車場が整備されている。また離れて設置されている主要な関連施設は、野球場・屋内野球練習場並びにサッカー練習場(第二運動場)である。校舎・校地の大学設置基準面積との対比は下表の通りである。</p>																												

・校舎/校地一覧表

	収容 定員 人	校舎			校地		
		基準面積 ㎡	現有面積 ㎡	差 異 ㎡	基準面積 ㎡	現有面積 ㎡	差 異 ㎡
東日本国際 大学	820	6,196.85	11,969.15	5,772.30	8,200	87,106.46 (大学と共用)	76,906.46
いわき短期 大学	200	2,350	3,559.14	1,209.14	2,000		
計	1,020	8,546.85	15,528.29	6,981.44	10,200	87,106.46	76,906.46

校舎は1号館から5号館までに分かれており、併設している短期大学は主に5号館を使用している。1号館には、300名収容の階段教室が設置されており、授業のほか、国際会議・講演会等での利用度が高い。また、孔子の教え「儒学」を建学の精神としている本学では、1号館屋上に孔子廟である湯島聖堂を再現した「大成殿」があり、例年「孔子祭」を開催している。3号館にはコンピュータ演習用の2室とコンピュータ自習室、4号館には図書館やアクティブラーニング室・ラーニングcommons室・資格取得支援室、さらに5号館には大学附属の研究所が設置されている。

■授業料・入学料その他の大学が徴収する費用

①学納金

2023年度学費 http://www.shk-ac.jp/admission_fee_fee.html

経済経営学部・健康福祉学部

1年次学費

単位：円

納付金の種類	入学時納付金	秋学期納付金	年額
入学金	100,000	-	100,000
授業料	360,000	360,000	720,000
設備費	120,000	120,000	240,000
教育充実費	60,000	60,000	120,000
実習費	30,000	-	30,000
合計	670,000	540,000	1,210,000

※上記の学納金以外に学生傷害保険 4,660円・学友会費 25,000円・鬘友会費（同窓会）25,000円を徴収します。

2年次以降の学費

単位：円

納付金の種類	春学期納付金	秋学期納付金	年額
授業料	360,000	360,000	720,000
設備費	120,000	120,000	240,000
教育充実費	60,000	60,000	120,000
合計	540,000	540,000	1,080,000

※履修科目によりかかる実習費は別途徴収します。

②奨学金

種 類	要 件	申込方法
東日本国際大学奨学金	本学に在籍する学生で、学業成績、部活動成績、人物ともに優れた者で経済的理由により修学が困難な者に学費を給付する。	所定の願書に学費負担者と連署の上、必要書類を添えて申し込む。
福島県奨学金	大学に在学している福島県出身の学生で、品行が正しく、学術に優れ能力があるにもかかわらず、経済的理由により修学が困難な者に奨学資金を貸与する。	所定の願書に学費負担者と連署の上、必要書類を添えて申し込む。
あしなが奨学金	保護者等が病気や災害（交通事故を除く）もしくは自死などで死亡、またはそれらが原因で著しい後遺障害を負い、教育費に困っている者で大学に在学している学生に学資を貸与する。	所定の願書に学費負担者と連署の上、必要書類を添えて申し込む。
ロータリー米山記念奨学金	勉学、研究を志して日本に在留している外国人留学生で、受給年度に、学部課程3・4年目に在籍する留学生。	所定の願書に記載の上、必要書類を添えて申し込む。
平和中島財団奨学金	日本の大学に在籍する私費外国人留学生で、学業、人物ともに優れ経済的理由により修学に困難がある者。	在籍する大学からの推薦により、書類選考する。
クリナップ財団給付型奨学金	福島県出身者で福島県内の大学に進学し、学業優秀・向学心旺盛で、経済的な理由で修学が困難な学生に奨学金支援を行う。	在籍する大学からの推薦により、書類選考する。
日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費	日本の大学に在籍する私費外国人留学生で学業、人物ともに優れ経済的理由により修学に困難がある者に給付。	大学の長を通じて、機構理事長に推薦する。
日本学生支援機構	特に優れた者で、経済的理由により修学が困難な学生に、貸与型及び給付型がある。	大学の長を通じて機構理事長に推薦する。

